



Third Age（前期高齢期）の課題： 就業、退職、収入、消費

学部横断型教育プログラム
「ジェロントロジー」コア科目1：
加齢にともなう心身機能、生活の変化と適応

2008年6月19日（木）

白波瀬佐和子（東京大学大学院人文社会系研究科）

‡:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

線形的でない加齢

- 年齢は量的変数であるが、その社会経済的意味は線形的な変化として十分とらえられない。

[カテゴリーカルな変化]

断続的な変化を伴うのが加齢
個人によって異なる加齢の中身

社会学的分析の必要性



高齢化の中身

- 全体人口に占める65歳以上人口割合の上昇(マクロな高齢化指標)

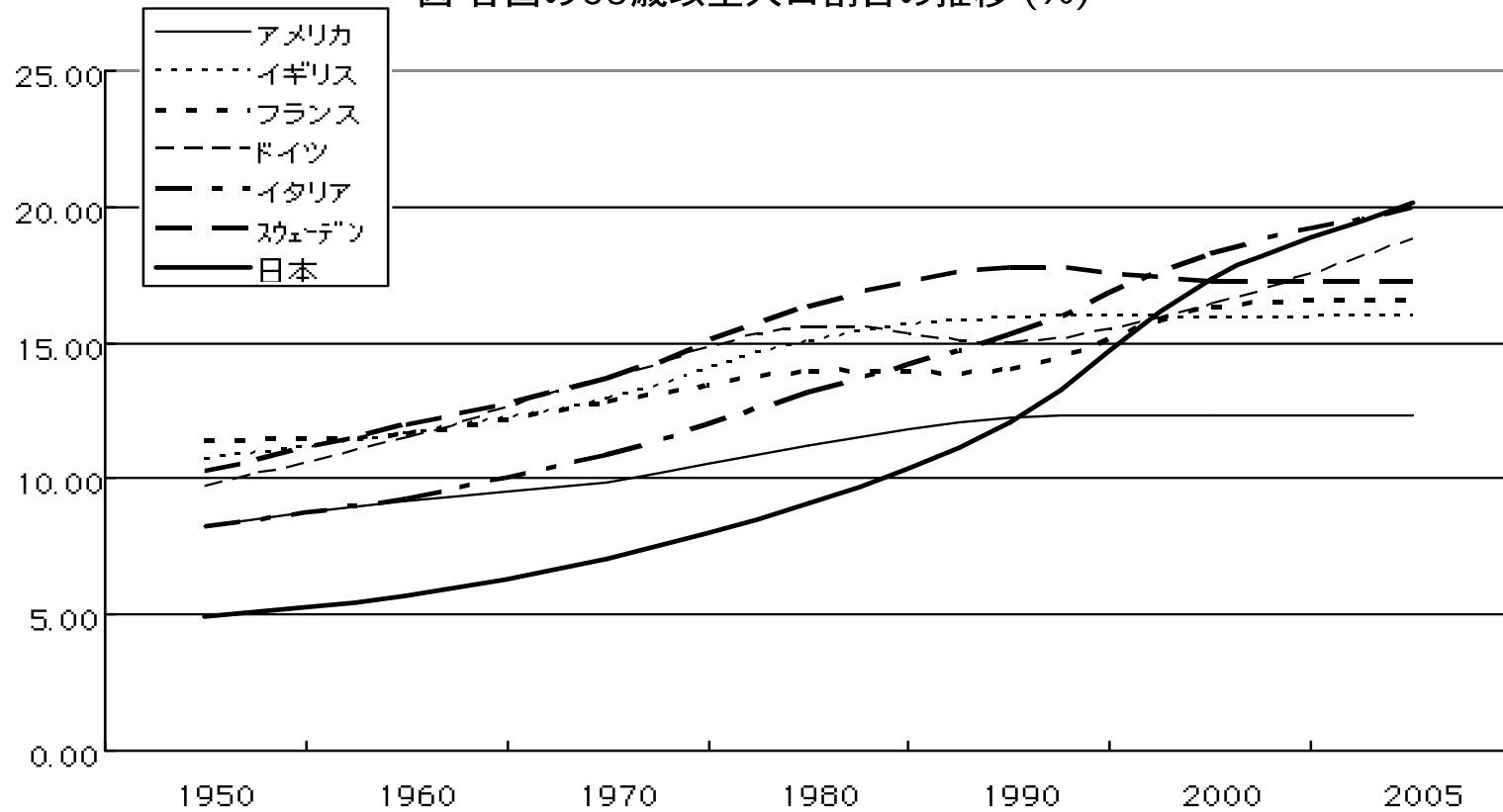
世代間のアンバランス

- 長寿化(ミクロな高齢化指標)

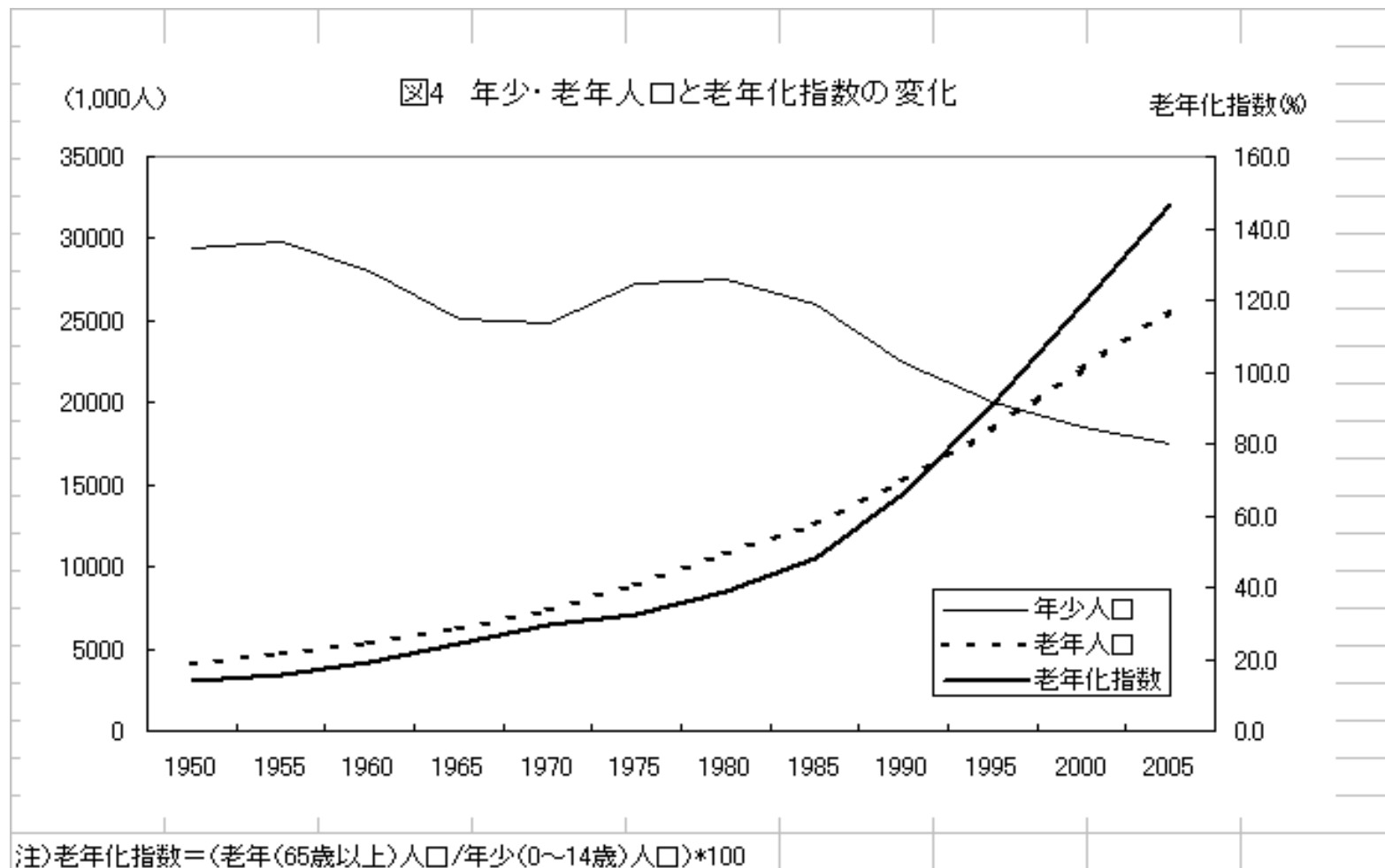
介護保険成立の背景

65歳以上人口割合の国際比較： 人口構造の急速な変容

図 各国の65歳以上人口割合の推移 (%)

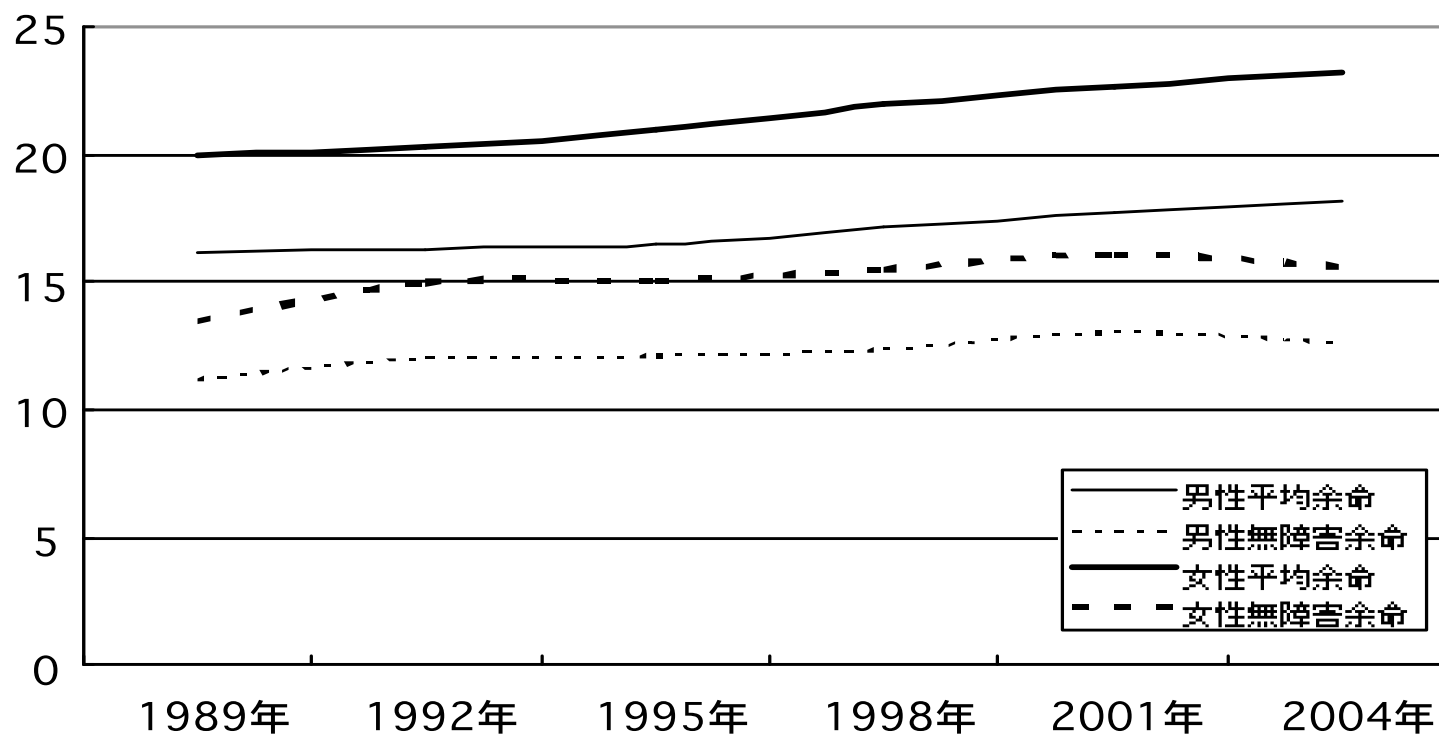


老年層の相対的拡大



平均余命と健康余命の格差が2000年以降拡大傾向にある。

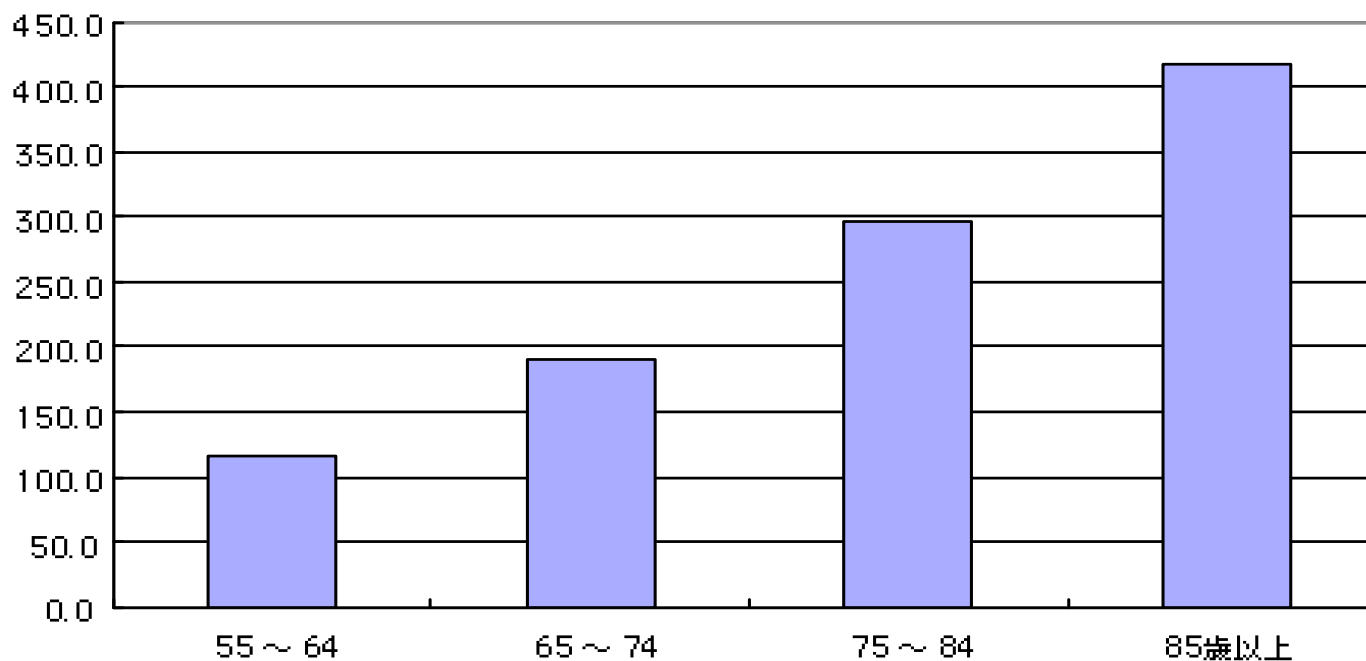
図 男女の65歳時平均余命と無障害平均余命（年）



出所)「平成18年版 国民生活白書」第3-1-6図より作成

日常生活への影響がある者は、前期高齢層から後期高齢層にかけて急速に高まる。

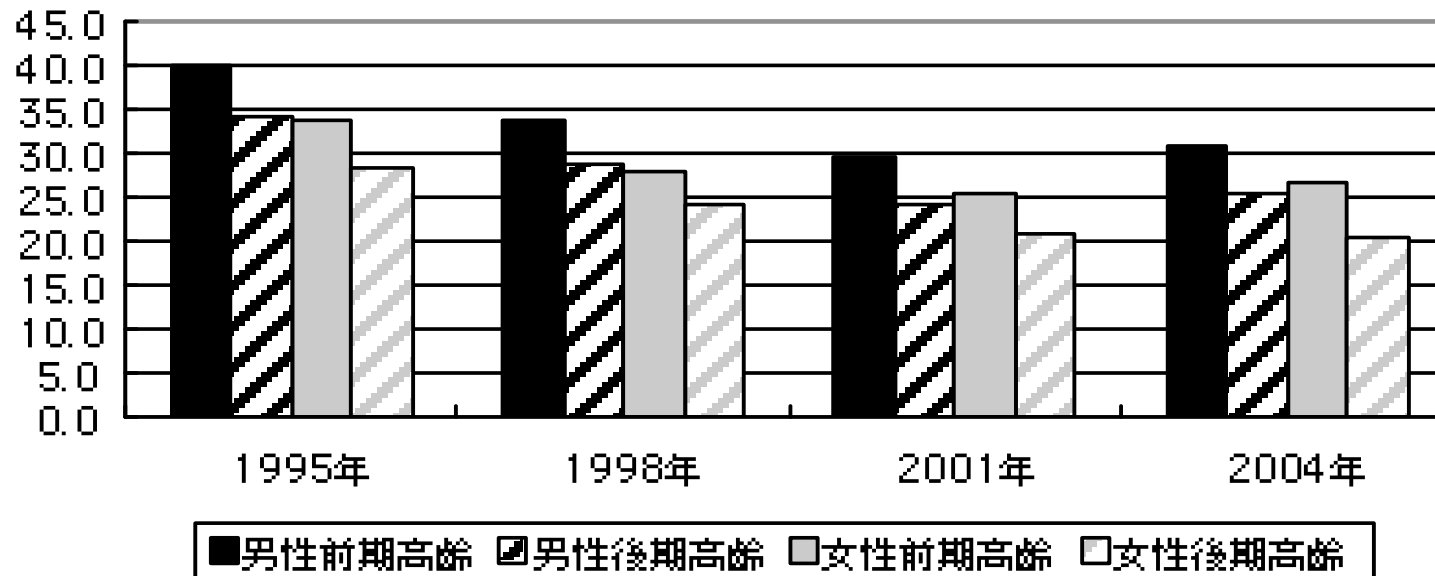
図 日常生活への影響がある者（対1,000人）



出所)「平成16年国民生活基礎調査」(厚生労働省) †

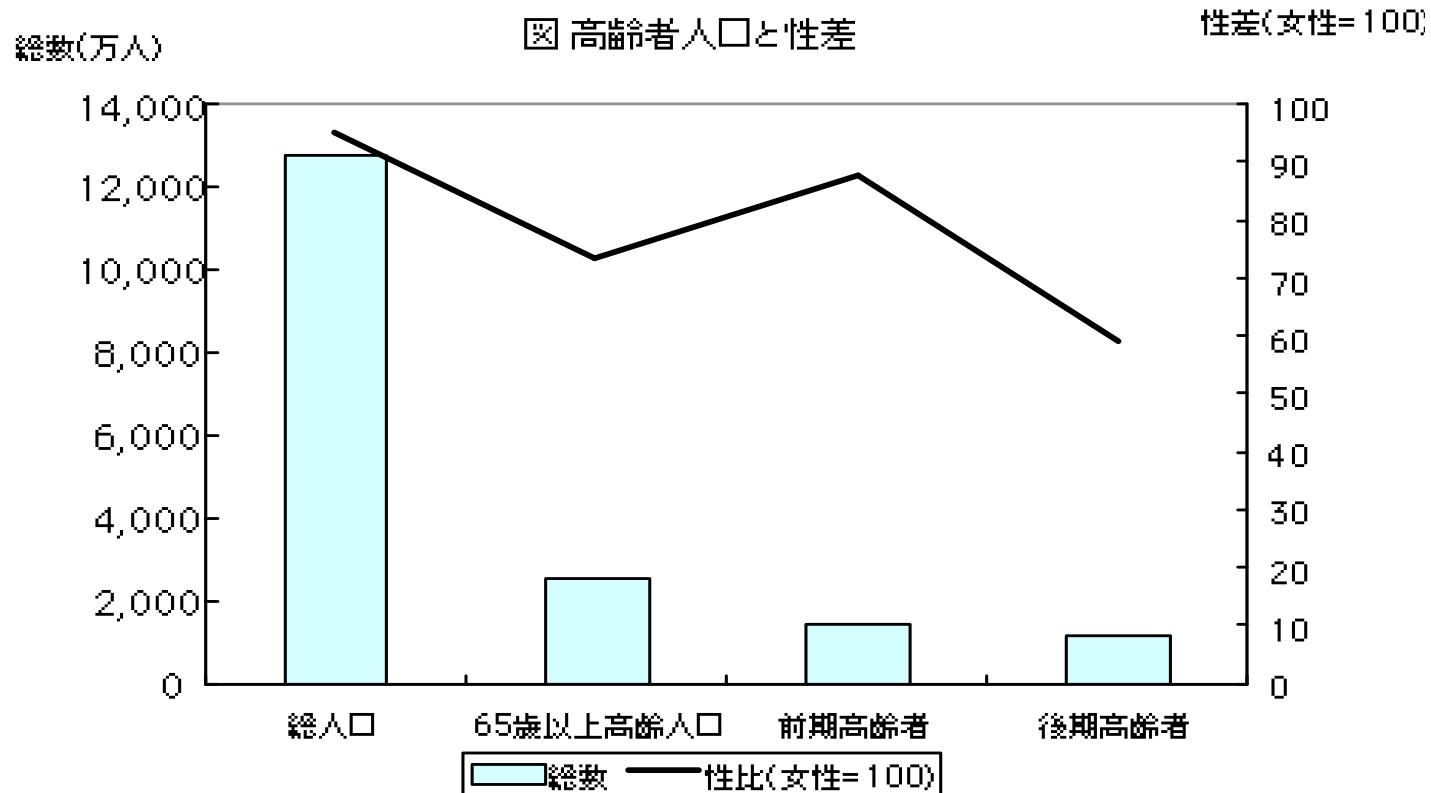
健康状態がよいと答えた割合は、近年、高齢女性の間で差が大きい。

図 男女年齢別健康状態がよいと答えた割合（％）



出所)「平成16年国民生活基礎調査」(厚生労働省) †

高齢化はジェンダー差を伴って進行

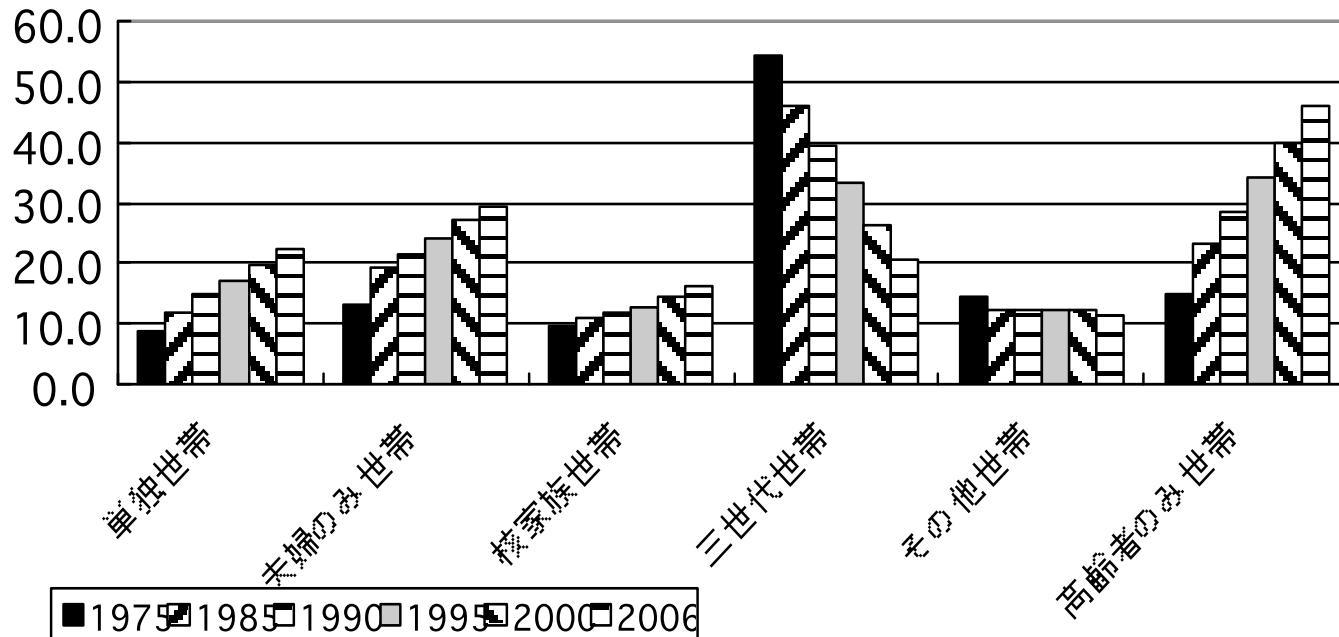


出所)「平成17年国勢調査」(総務省統計局)



高齢者たちはどこにいるのか？

図 65歳以上高齢者がいる世帯構造分布 (%)

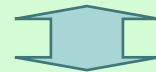


出所)厚生労働省統計情報部『厚生行政基礎調査報告』および『国民生活基礎調査』による。



高齢者のいる世帯構造の変容

一人暮らし世帯・夫婦のみ世帯の増加



三世帯世帯の減少

家族機能に依拠した生活保障システムの
ゆらぎ
(日本型福祉社会の崩壊)

高齢者世帯の比較的高い経済格差

表 全世帯/高齢者世帯別にみた年間所得金額のジニ係数の推移

年次	全世帯	高齢者世帯
平成6年	0.3918	0.4464
9	0.3954	0.4309
12	0.3997	0.4159
13	0.3965	0.3957
14	0.3986	0.4192
15	0.3882	0.3906
16	0.3999	0.4131

出所)「国民生活基礎調査」(厚生労働省 各年)

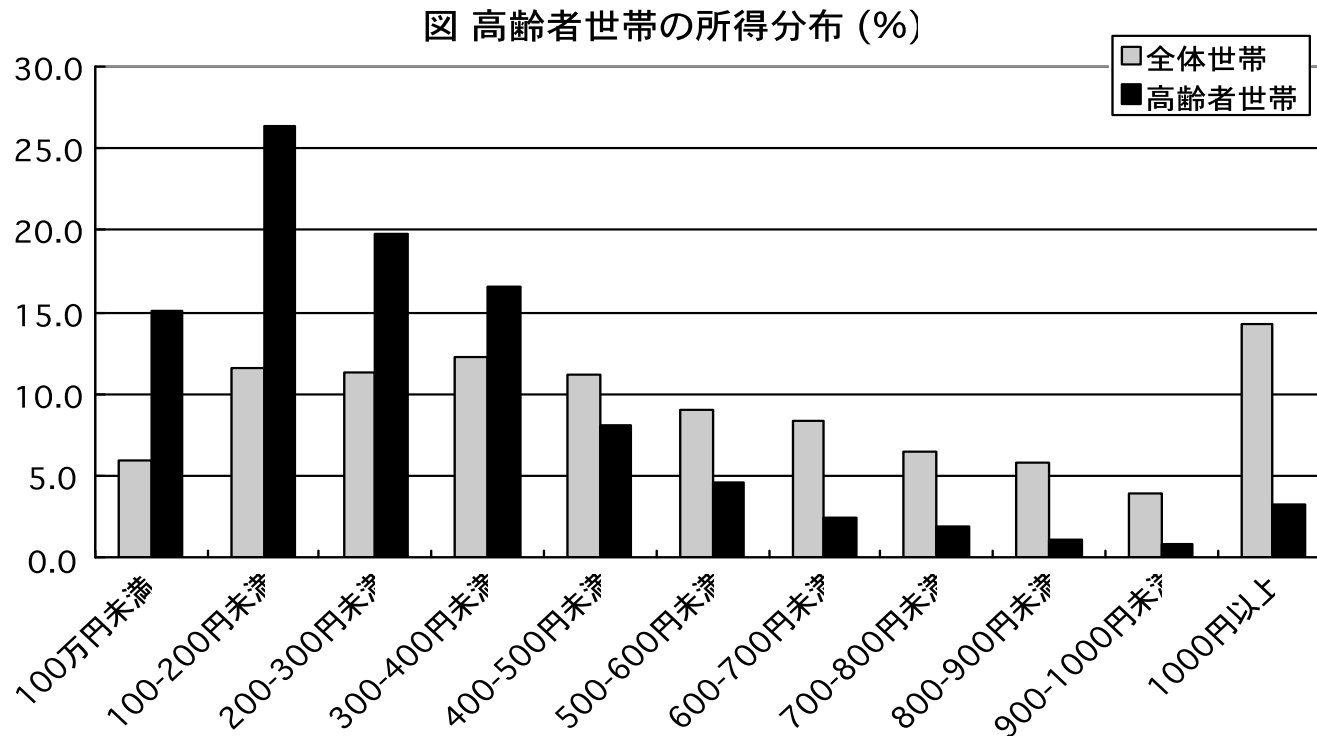
†



経済格差拡大論の是非

- 橘木論（『日本の経済格差』（1998年、岩波新書）
「日本の経済格差はアメリカ並み」
「格差というよりも貧困国となった日本」
- 大竹論（『日本の不平等』（2005年、日本経済新聞社）
「経済格差拡大の要因は人口高齢化にある」
「格差拡大は見せかけにすぎない」

高齢世帯の所得分布は低所得層に偏る。

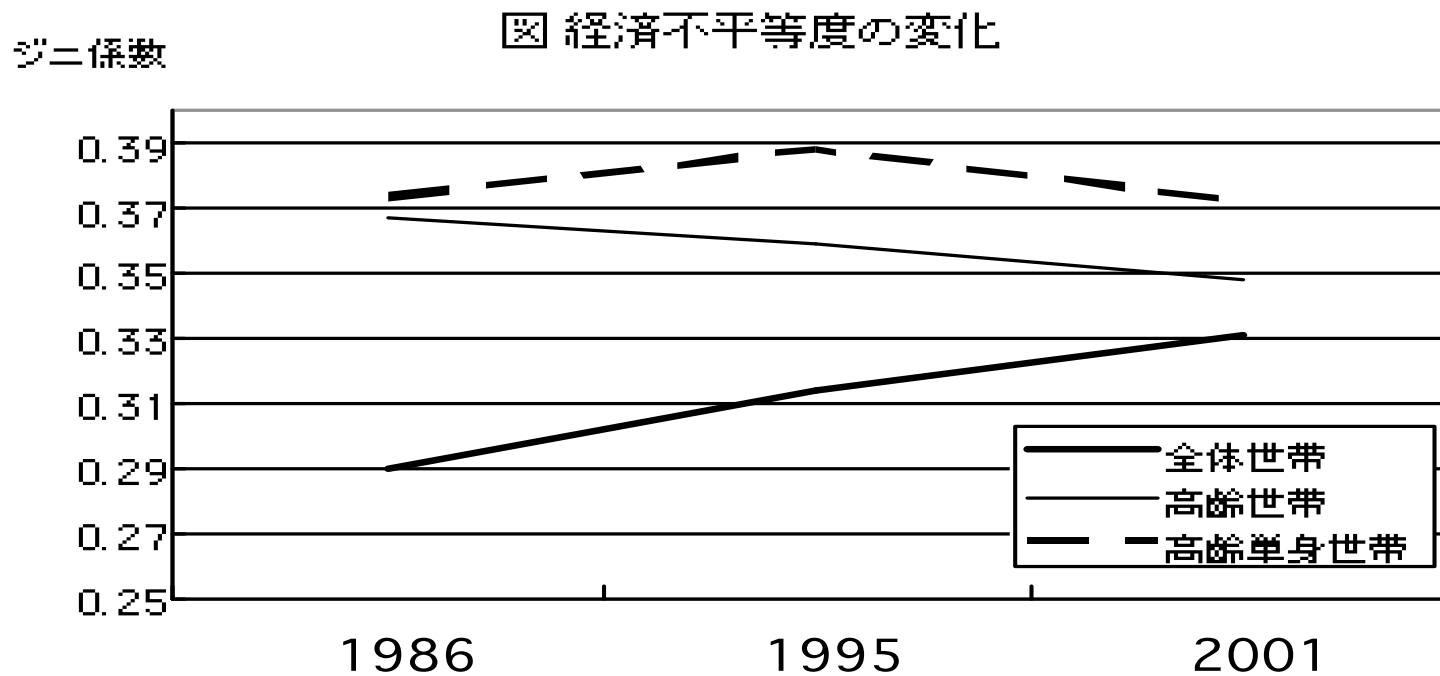


出所「平成16年国民生活基礎調査」(厚生労働省)



注) 高齢世帯とは、65歳以上の者のみで構成するか、あるいはこれに18歳未満の未婚の者が加わった世帯をいう。世帯構造からいうと、65歳以上の単独世帯、夫婦のみ世帯がそのほとんどである。

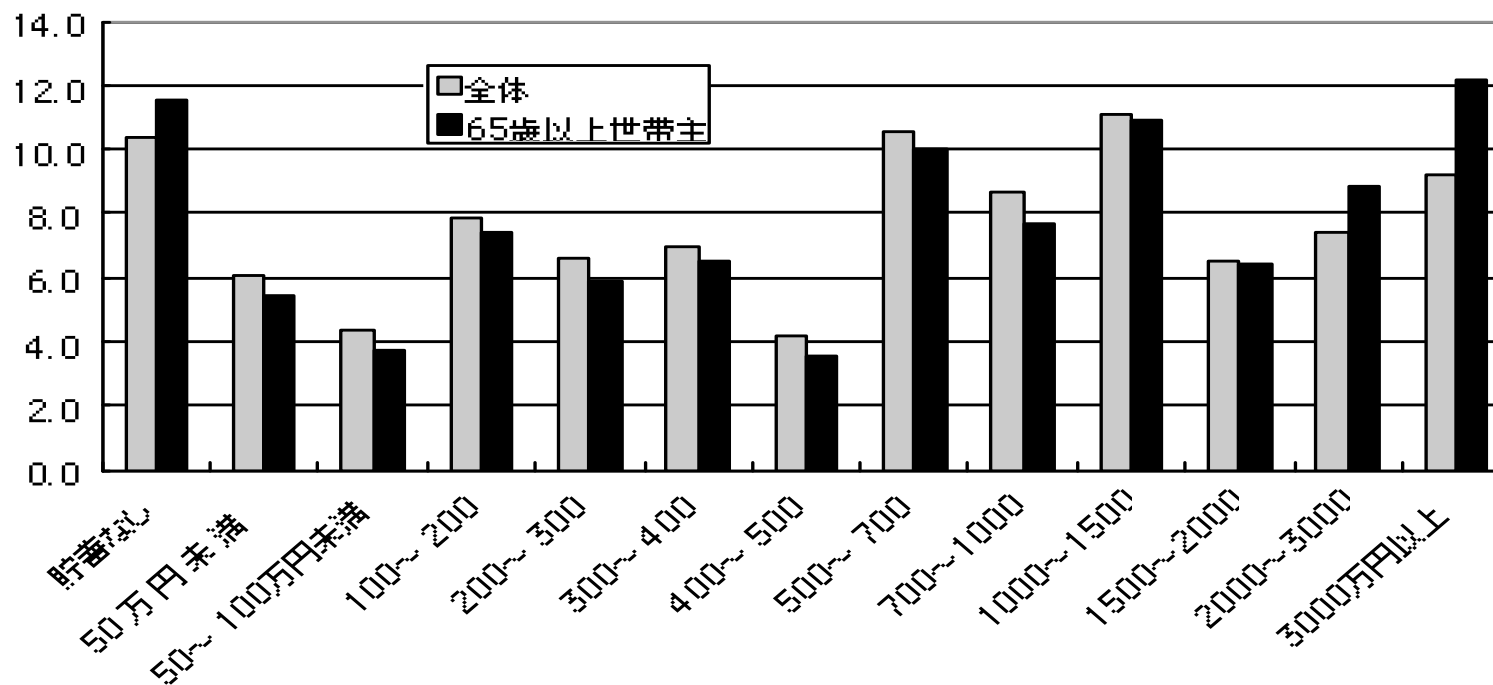
高齢世帯の経済格差は改善傾向にあるが、全体に比べて大きい。



出所) 白波瀬佐和子「高齢期をひとりで暮らすということ」『季刊社会保障研究』第41巻
図3(pp. 113)を引用

貯蓄を保有するものに着目すると、65歳以上世帯主の中で貯蓄高の分散化が進行。

図 65歳以上世帯主世帯の貯蓄額分布（％）

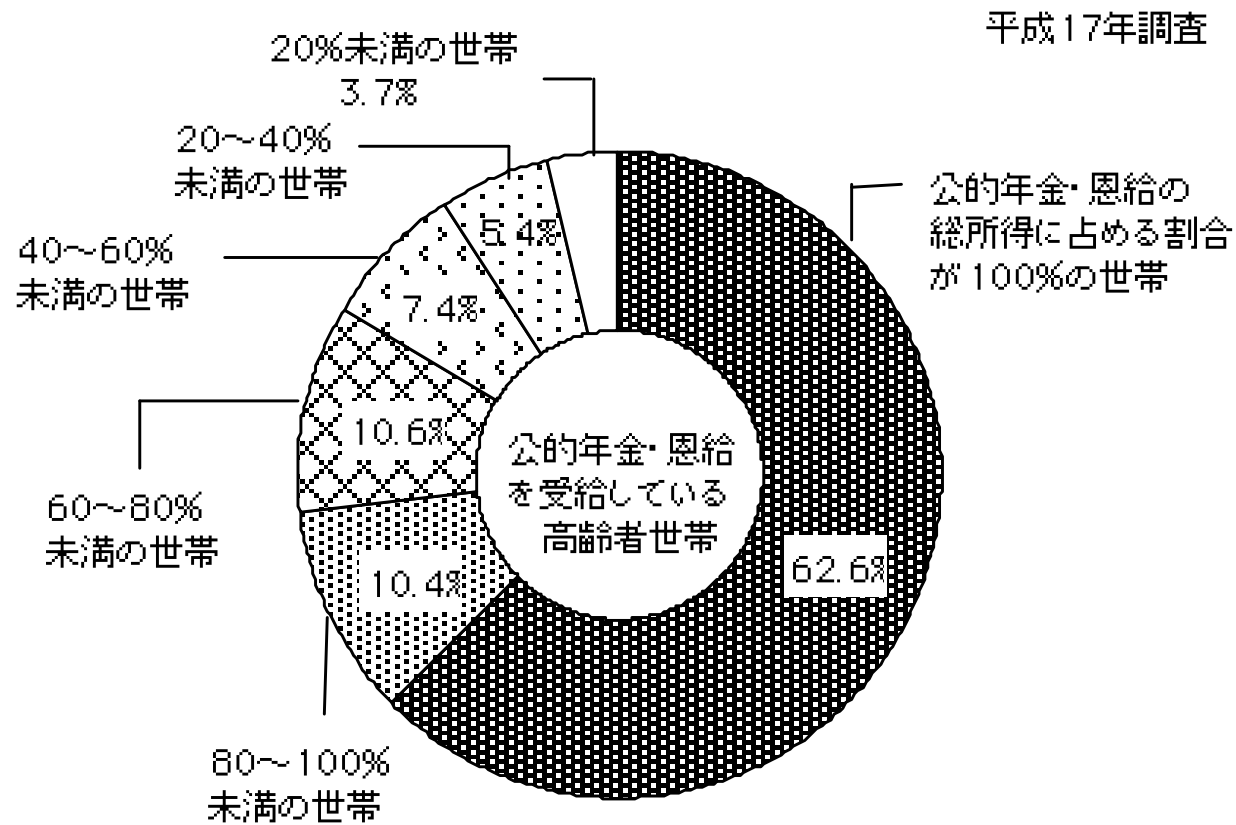


出所：「平成16年国民生活基礎調査」（厚生労働省） †

● ● ●

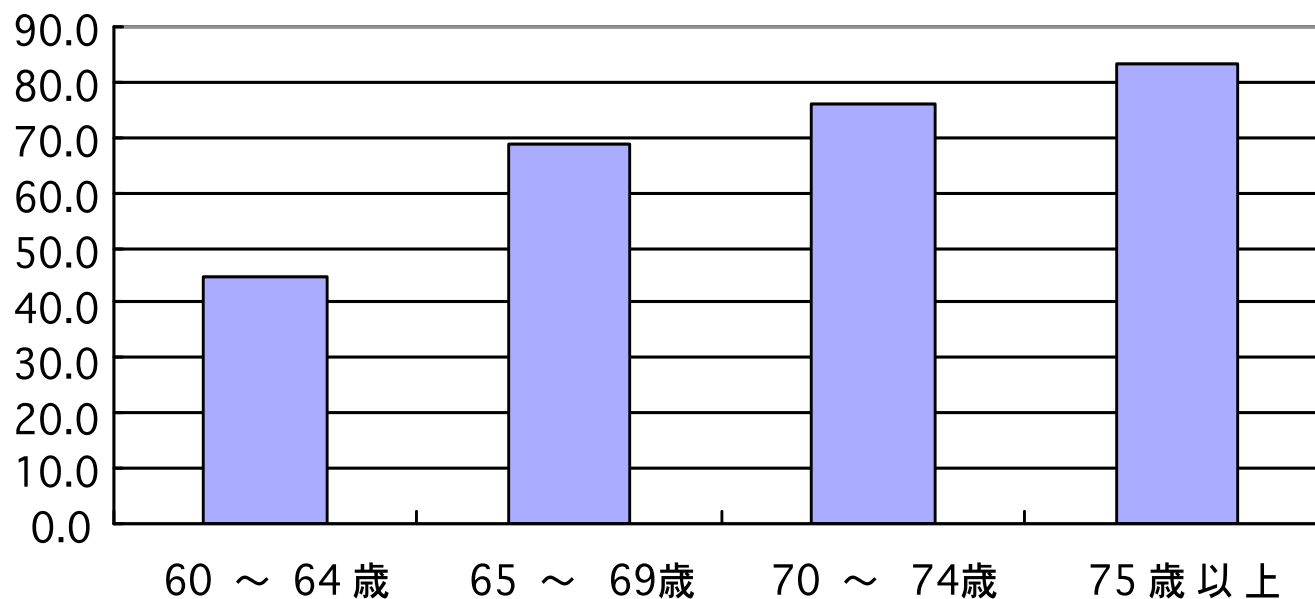
公的年金・恩給を受給している高齢者世帯における公的年金・恩給の総所得に占める割合別世帯数の構成割合

(出所:「平成17年 国民生活基礎調査 概要」(厚生労働省))⁺



世帯主年齢の上昇に従って、年金収入割合は上昇

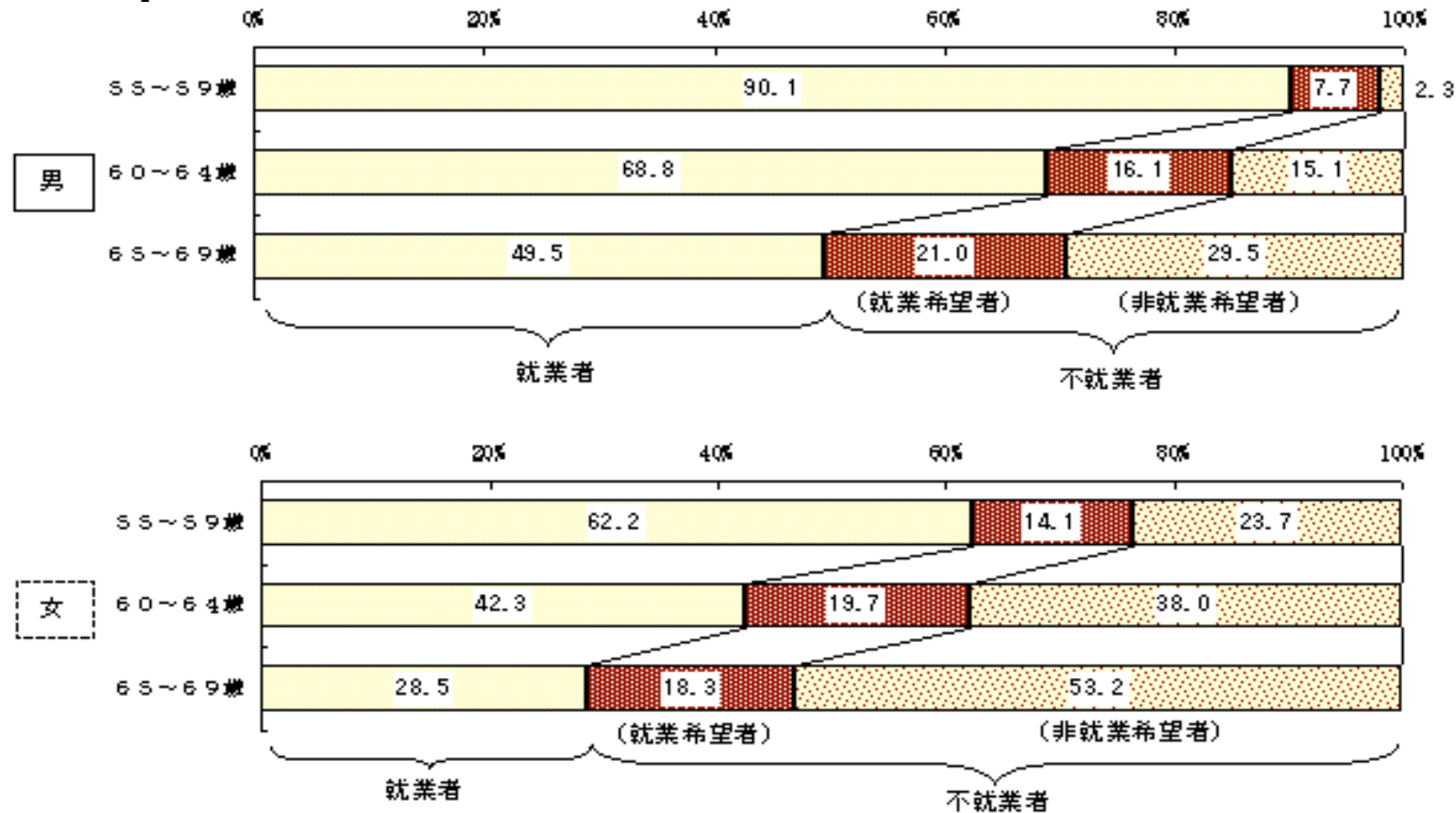
図 高齢単身世帯の年齢別 公的年金・個人年金割合



出所)「平成16年 全国消費実態調査」(総務省統計局)



高齢者の就業状況

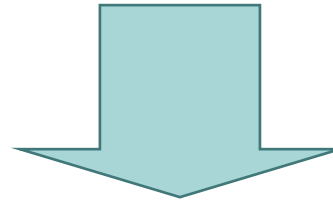


出所:「平成16年高年齢者就業実態調査結果の概況」¹⁹

¹⁹ (厚生労働省 2005年, <http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/keitai/04/kekka-k1.html>)

前期高齢層内での階層化

働くもの・働かないもの

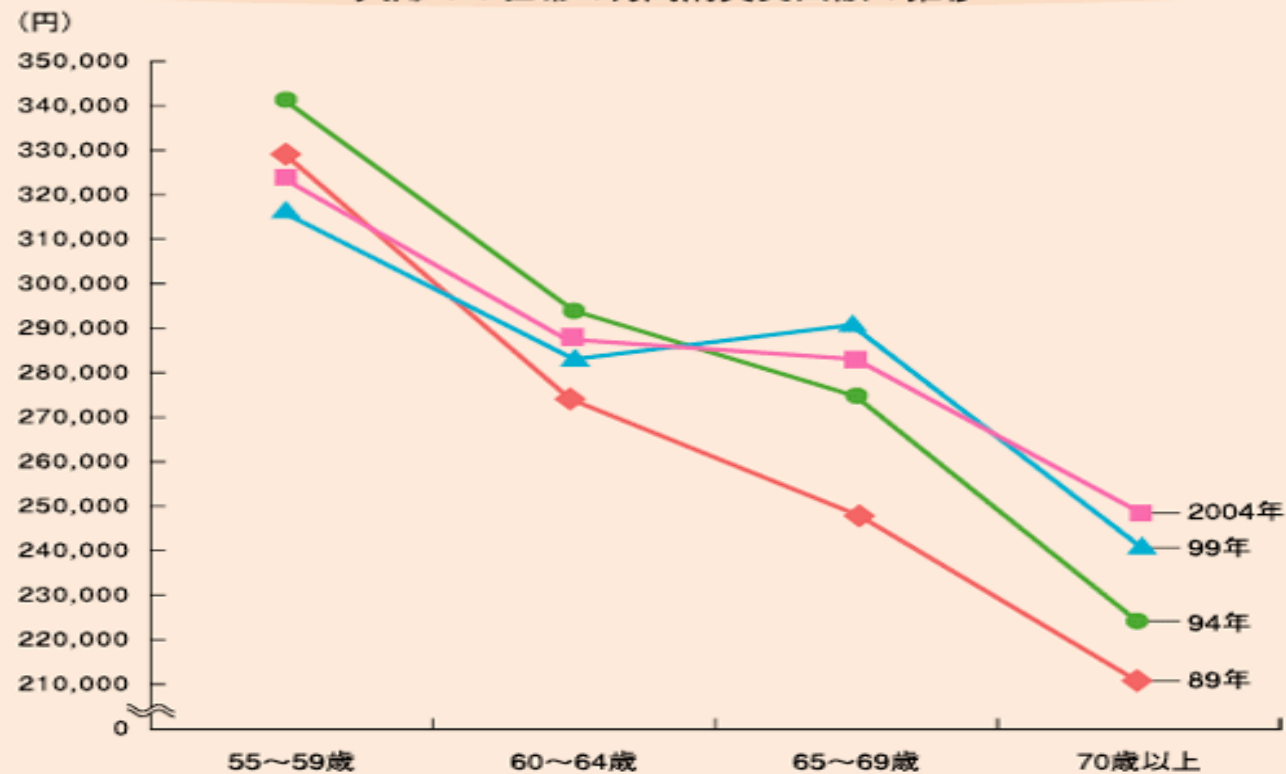


- ・収入構造の違い
- ・健康状態の違い

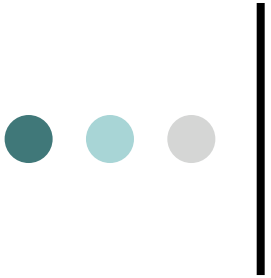
高齢層の衰えない消費意欲

出所:「平成18年 国民生活白書 (第3-1-12図) 」(内閣府 2006年)†

夫婦のみ世帯の月間消費支出額の推移



- (備考) 1. 総務省「家計調査」により特別集計。
2. 世帯主年齢層別の月間消費支出額。
3. 消費支出額は消費者物価指数(帰属家賃を除く総合)を用いて実質化(2000年基準)した。
4. 対象は、全世帯のうち夫婦のみ世帯。



これまでとは違った高齢者： アクティブ・エイジング 生涯現役人生

- ・ 世帯主年齢60代後半で7割、70歳以上でも半数近くが携帯電話を所有
- ・ パソコン所有率は60代後半で過半数、70歳を過ぎても4割近く
- ・ 携帯保有率は1999年からの5年間で倍近く、パソコンについては倍以上の増加

（「平成16年全国消費実態調査」(総務省 2005)）

- ・ インターネット利用者は60代後半で4人に1人おり、その割合は2001年から2006年の5年間に倍近く上昇
- ・ 60代後半から70代前半高齢者の半数は国内旅行を楽しんでいる。
- ・ 2006年時点で60代後半の1割程度が海外旅行をしたと答えている
- ・ 「ボランティア活動」に参加したとするものは、60代後半から70代前半で3割程度。60代後半の3割程度が「学習・研究」を過去1年間に行った。

（「平成18年社会生活基本調査」総務省 2007）



前期高齢期の特徴

現役からの移行期

年齢層内の高い異質性
労働市場と関連した収入構造
異なる健康状態



前期高齢期の課題：高い異質性への対応

- 現役世代からの移行に伴うばらつき
（ライフステージの問題）
- 働くものと働かないものの混在
（労働市場との多様な関係）
- 現役世代と引退世代のアンバランス
（世代間関係）
- 高齢期の階層化（世代内関係）
- 世帯構造の変化（世帯サイズの縮小）